

生育が平年より早まっています!! 圃場をよく確認し穂肥施用による後期栄養の確保と飽水管理で稲体の活力を維持しましょう!

1. 7月21日現在の水稻生育状況（なんかん北地区管内平均）

- コシヒカリ：草丈/やや長い、茎数/少ない、葉数/並、葉色/並
- こしいぶき：草丈/やや長い、茎数/少ない、葉数/並、葉色/やや濃

品種	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉数 (葉)		葉色 (SPAD)	
	本年	指標	本年	指標	本年	指標	本年	指標
コシヒカリ	85	78	349	390	12.4	12.0	34.8	34.0
こしいぶき	86	77	372	430	12.2	12.7	39.9	37.0

※コシヒカリ元肥一発体系の場合、葉色(SPAD)指標値は『35.5』となります。

2. 後期栄養をしっかりと確保するために、確実に追肥を行いましょう。

- 出穂前 10 日頃の穂肥は後期栄養を維持するため、窒素成分で 1.0～1.5kg/10a を施用しましょう。葉色が淡い圃場は直ちに施用しましょう。
- 元肥一発肥料の圃場でも、葉色が大きく低下している場合は後半の肥切れが心配されますので、出穂 10 日前頃に穂肥を施用しましょう。
- 穂肥 2 回目を施用しても、葉色が淡い場合は、下表をめやすに追加穂肥を施用しましょう。

【表-高温が予想される場合のコシヒカリの追加穂肥の判断めやす】

施肥体系	追加穂肥の判断条件	追加穂肥の時期と施用量
分施	出穂6日前の葉色が、SPAD 値 33 以下 出穂3日前の葉色が、SPAD 値 31 以下	出穂3日前までに、 窒素成分で 1.0kg /10a を上限
元肥一発	1 回も追肥を行っていない状態で、 出穂期の葉色が、SPAD 値 32～33 以下	出穂3日前までに、 窒素成分で 1.0kg/10a を上限

※有機質肥料を施用する場合は、2日程度早めに施用しましょう。

3. 水管理を飽水管理に移行し、土壤に十分な水分を保ちましょう。

- 出穂期前後 5 日間は水を一番必要とする時期です。
- 玄米の発達は出穂開花後 25 日以降まで続きます。出穂 25 日後までは飽水管理を継続し、土壤に適度な水分を保つことで窒素の発現を促して後期栄養を維持するとともに、白未熟粒の発生を抑えて整粒歩合を高めることができます。

※夏場は用水の使用量が多くなるため、用水路の下流域の水田では水不足が懸念されます。地域全体で効率的に農業用水を使用するよう心がけ、掛け流しは絶対行わないようにしましょう!



で稲作・米穀情報の発信をやっています!

方法① ID 検索

[友達追加]>[検索]で

@287vzxcx を入力

方法② QR コードを読み取る

[友達追加]>[QR コード]で、

右の QR コードを読み取る。



【お問い合わせ先】

なんかん北営農センター
米穀課

TEL : 0256-47-1429